

1. 事業の概要

ウォーターフットプリント（WF）は、バーチャルウォーター（仮想水）等の概念をベースとした水への負荷の「見える化」指標であり、現在国際標準化機構（ISO）2011年までに国際規格化される方向で議論が進められていたが、環境への影響評価手法や地域偏在性の問題、水質劣化の取扱等について活発な議論が交わされており、2013年度末のWFのISO発効に間に合うようにガイドラインを作成し、普及させることにより、我が国の優れた水処理や水の有効利用に関する技術が相対的に高く評価され、我が国企業の海外展開にとって有利に働くことが期待される。

2. 事業計画

①WFの基本的考え方・算定方法等の検討（H25年度）

H25年度は事業者や消費者等から構成される検討会の継続に加え、WFの具体的算定方法に関する専門家からなる検討会も開催し、実際の事業者によるWFの算定事例等の検証を踏まえ、WFの基本的考え方・算定方法等を検討する。

②ガイドラインの策定（H25年度）

①に基づき、WFの基本的考え方、算定方法等のガイドラインを策定。

3. 施策の効果

我が国企業の水ビジネス海外展開促進
水環境保全について、国民意識の向上

水環境保全におけるフットプリント導入推進費

課題1

世界では、水質汚濁や水不足など水環境問題がますます深刻化。

課題2

日本は、輸入食料を通して、海外の水を多く使用しており、水質汚濁や水不足に大きな影響。

課題3

世界的な視点から国民の水環境保全に関する意識が低い。

国際規格化(ISO化)に向けた動向

H21

- H21.6
WFのISO化作業が決定し、WGにて議論開始(対応国内委員会委員長: 沖東大教授)

H22

- H21.11
第1回国際会合(ストックホルム)
- H22.7
第2回国際会合開催(メキシコ)
- H23.1
第3回国際会合(ローザヌ)

H23

- H23.6
第4回国際会合(オスロ)
※PWI(予備業務項目)→AWI(承認済新業務項目)へ移行予定
- 第5回国際会合(ブラジル)

H24

- 第6回国際会合(タイ)
- 第7回国際会合(ローマ)

H25

- ISO14046発行(予定)

日本に有益な規格化を推進することが不可欠

目に見える水環境情報(ウォーターフットプリント:WF)の導入

食品などがライフサイクル全般で水環境(水質と水量)に与える影響を可視化

- ・食品等の生産過程における水の使用量や汚染度など必要な水環境情報の収集
- ・水環境情報からウォーターフットプリント(WF)を算定する手法及び表示手法の検討

H22 WFの指標簡素化に向けた検討

WFを水への環境負荷を正確かつ公平に反映し、かつ簡素な指標とするための検討を実施し、標準化作業へ反映

| | | |
|-------|--------|--------------------|
| 検討の視点 | ●地域偏在性 | ●水源の種類(化石水と表流水) |
| | ●時間変動制 | ●排水量と取水量の環境負荷の評価 等 |

H23 WFの試行的算出及び課題抽出

WF算定手法に関するISO化WGでの議論を踏まえて、いくつかの生産品を対象にWFを試行的に算出し、課題を整理

H24 WFを活用したコミュニケーションに関する検討

事業者や消費者等で構成する検討会の議論を経てニーズを整理

H25 WFの基本的考え方・算定方法等のガイドライン策定

今後の水環境保全型社会に向けたWFを使った施策展開へ！



ウォーターフットプリントの事例(日経エコロジーWebサイトより抜粋)

- ・国際関係を含む水環境保全について、国民意識の向上、国際協力の必要性の明確化
- ・水環境への負荷の少ない生産活動・消費活動誘導
- ・我が国の優れた水処理技術の国際競争力の向上